

令和7年度使用中学校用教科用図書の「採択教科用図書」及び「採択理由」

【美術】

1 採択教科用図書

- 日本文教出版

2 採択理由

(1) 日本文教出版は、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて、次のような編集がなされている。

- 美術科の目標を達成するために、表紙や巻頭の見開きページの作品から題材につなげていくことで、学びのつながりを意識させるとともに、各学年の発達の特性に即した題材の構成・配列の工夫が見られる。
- 鑑賞と表現活動の相互が効果的に活用できるよう、実際の授業の画像が用いられ、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるような工夫など、「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。
- 3年間の発達の段階に合わせて系統立てられた学年ごとの題材が設定され、生徒の主体性を高める工夫がされている。補助資料としては、巻末に「学びを支える資料」を設け各学年のねらいに関連した知識及び技能の習得に加え、「多様性と共同制作」「社会と関わる美術」についてスポットを当てて集約されるなど、3年間を通して、3分冊構成の教科書で学びの支援が図られている。

(2) 日本文教出版は以下の点で、特に本地区の実態に合致していると言える。

- 地域の特色や生徒の実態を考慮すると、見開きを使って大きく作品を見せ、折り曲げて立たせるなどの操作が設定されており、生徒の創作意欲につながるような工夫が見られる。また、「美術館へ行こう」では、美術館の様々な側面に触れるなどの生徒の興味を引く工夫が見られる。
- これまでの学びや経験を生かすことについては、「学びを支える資料」として、「技法」「鑑賞」「色彩」にまとめるなど、知識・技能を引き出しやすい工夫がされている。
- 自分の住んでいる地域と関連付けて考えられるようにするために、「祭りを彩る造形」では、故郷復興プロジェクトを掲載するなど、社会の中の美術の働きについてより身近に感じさせる工夫がされている。

椎葉村教育委員会においては、北部採択地区協議会での「研究資料」及び専門委員の報告に対する質疑・応答後の選定結果を参考に、教育委員による協議がなされ、日本文教出版の教科用図書が最適であるとして採択した。